

Doe 3146

Evid

Folder 10

(239)

其ノ部ノ者	等級三以下
其ノ部ノ者	等級二
其ノ部ノ者	等級三以下

自昭和九年五月二十一日	至昭和九年五月三十一日
自昭和九年五月二十一日	至昭和九年五月三十一日

東京灣發内海西部ニ同航	東京灣發内海西部ニ同航
全作艦指導ノ機務ニ從事	全作艦指導ノ機務ニ從事

(終)

第一聯隊司令部第一五號

# 軍機

大東亞戰爭定期功績概見表  
第一聯隊司令部第一五號  
司令官 海軍少將 南雲 忠一

区分項目	功績等級	期間	作戦行動概要	関係業務等	記事	所屬長官所見
第一聯隊司令部	等級五	自十八、十一、一 至十九、二、一	作戦行動概要 引続キコトニ在リテ防衛 隊、聯合教育訓練、統制指導ニ従 事	關係業務等 引続キコトニ在リテ防衛 隊、聯合教育訓練、統制指導ニ従 事	十九、二、一 第一聯隊	十二
			リンガニ回航同右			

終

3.16

第二艦隊機番第三一號ノ一三

大東亞戦争定期功績概見表

自十八年十二月一日  
至十九年五月三十一日

第二艦隊司令部

第二艦隊司令長官海軍中將

栗田健

區分項目功績等級期

間作戦行動戦争關係業務等記

第二艦隊司令部

等級三

自十八年十二月六日  
至十九年五月三十一日

臨戦準備ヲ整ヘ前  
進基地ニ在リテ待  
機勤務ニ従事

自十二月一日起  
至十二月五日迄  
照分ハ前期概見表參

(終)

海軍



**軍秘**

第一機動艦隊司令部 第一〇四號

昭和十九年六月七日

十月十五日 逕達

大東亞戰爭定期功績概見表

自十八年五月一日 至十九年五月三十一日

第一機動艦隊司令部 第一機動艦隊司令長官 海軍中將 小澤治三郎

区分/項目	功績等級	期間	作戦行動戦争関係業務等	記事
第一艦隊司令部	等級五	自五月一日 至五月五日	トヲクニ在リテ訓練待機	青日 渡取瑞鶴 五月六日 渡取大渡
第一艦隊司令部	等級六	自五月五日 至五月五日	横須賀駐ニ内海西部ニ在リ テ補給駐ニ訓練待機	
第一艦隊司令部	等級四	自五月六日 至五月五日	内地昭南間軍隊兵器軍 需品輸送駐ニ一航戰飛行 機隊基地移動	
第一艦隊司令部	等級六	自五月六日 至五月九日	昭南及リンガ泊地ニ在リテ	

海軍











再調

一五〇、六九

大東亞戰爭臨時功績概見表

昭和十九年一月三十日  
至昭和十九年二月六日

第四艦隊司令部

第四艦隊司令長官 海軍中將 小林 仁

仁

連	項		功績	期	作戦行動戦争関係業務等	記
	分	目				
第一等	幕僚	一等准士官以上	等級一		マール方面作戦計畫指導支援ニ從事	戦果 一撃墜 約一〇〇
第二等	司令	一等准士官以上	等級二	自十九年	作戦部隊ノ補給整備計畫	二撃沈
第三等	司令	二等准士官以上	等級三	一月三十日	指導ニ從事	三撃破
第四等	部	一般下士官兵	等級四			四火炎
第五等	附	雇員傭人	等級五	至十九年	各島孤立ノ逆境ニ陥リ間斷	巡洋艦 二
マール方面			等級一	二月六日	夕強力航空兵力水上艦艇	駆逐艦 一二

一五〇

五

防備部隊

基地航空部隊

等級一

ノ猛撃ニ對シテクノ基地確保ニ	任ジ更ニ大部隊ナル上陸部	隊ヲ邀撃奮戦力斗週日遂	ニ全員玉碎セリ	残存僅少兵力ヲ以テ連日敵	大部隊ヲ邀撃及東敵攻撃	ニ任ジ有カナル戦果ヲ收ム
----------------	--------------	-------------	---------	--------------	-------------	--------------

一五 八四

大東亞戰爭臨時功績概見表 (自一九三二至一九三八)

第四艦隊司令部 第四艦隊司令長官海軍中將原

第四艦隊司令部印

區分	功績等級	期間	作戦行動戰事由係業務等	戰果
幕僚	等級二	一九三二	ト多ノ方面敵機動部	擊破一二五(内不獲天二六)
司令部附	等級三	一九三二	隊邊擊作戦指揮支援	擊破我艦又八巡洋艦一
隊員	等級四	一九三八	二從事	擊破空母

所屬長官

所見

(別紙添)

海軍

別紙

昭和十九年二月四日敵大型機「トラック」偵察以後索敵警戒ヲ嚴ニナセルモ敵ヲ見ズ然ルニ二月十七日拂曉敵戦爆隊聯合約一口機以上「ト」ラック「レ」来襲引續キ連續ニ来襲セル敵ハ主トシテ在泊艦船及陸上基地ニ攻撃ヲ集中ス  
我航空、陸上部隊ハ善ク應戦シ、飛行索敵ヨリ口六五五敵機動部隊ヲ発見急據之ガ攻撃ニ全力ヲ盡ス、速ニ各艦艇ノ避退ヲ命ジ極力之ガ被害局限ヲ圖ル

(終)

第四艦隊機密第一五號 一八五

大東亞戦争臨時功績概見表

昭和十九年四月三十日  
至昭和十九年五月一日

第四艦隊司令部

第四艦隊司令長官海軍中將 原 忠

日分

功績等級

期 間

作戦行動戦争関係業務等

記

トラフク  
防備部隊

等級二

自一九四三  
至一九五一

有力ナル敵機動部隊トシテ諸島  
ニ近接早朝ヨリ薄暮ニ至ル迄連續未  
襲所在部隊ト協力之ガ邀撃作戦  
指揮支援ニ従事セリ

戦果

撃墜

撃破

炎上艦隻不詳一

所属長官

所見



寫

軍極秘

13

三次機密第一號十一、二十七

甲月三日進達

大東亞戰爭功績概見表(第五六回)

自昭和十九年三月一日至昭和十九年六月三十日

第三次機密艦隊指揮官海軍兵曹長同前大佐

區分/項目	功績等級	期	間	作戦行動概要	記
第十一海軍幸丸	等級五	自昭和十九年三月一日	至昭和十九年五月五日	内地在、船体機関修理及兵糧運向軍需品輸送任務從事	編成
第五大和丸	等級六	自昭和十九年五月六日	至昭和十九年五月三十日	内地及小笠原方面軍需品輸送任務二從事	第四艦隊所屬
幸勢丸	等級五	自昭和十九年六月一日	至昭和十九年六月三十日	サイバニバカニ島方面軍需品輸送任務二從事	第三次機密艦隊指揮官
第二丸中丸	等級三	自昭和十九年六月十一日	至昭和十九年六月三十日	小笠原島に於て敵機四十機ト交戦	第三次機密艦隊指揮官
春日丸	等級三	自昭和十九年六月三十日	至昭和十九年六月三十日	小笠原島に於て敵機十機ト交戦	第三次機密艦隊指揮官

機密第一號

軍級 三

海軍九年十月五日

ハリ島ニ於テ敵艦五十餘ト交戦  
之ノ撃沈セシメ其ノ残艦十九隻並  
彈ノ大破沈没

所属長官  
所見

終



三次機密第一號十一、二十九

十月廿四日進達

(竹海勝)

大東亞戰爭功績概見表(第五六回)

自昭和十九年三月一日至昭和十九年九月十日

第三次機密船群指揮官海軍兵曹長

同前大

區分	項目	功績等級	期間	作戦行動戰事關係業務等	記事
明神丸	等級五	等級五	自昭和十九年三月一日至昭和十九年五月五日	内地在船体機関修理及吳積運回軍需品輸送任務ニ從事	第三次機密船群編成
	等級六	等級六	自昭和十九年五月六日至昭和十九年五月九日	内地及小笠原方面軍需品輸送任務ニ從事	第四艦隊所屬
	等級五	等級五	自昭和十九年五月十日		
	等級六	等級六	自昭和十九年八月十九日	内地及小笠原方面軍需品輸送任務ニ從事	
	等級五	等級五	自昭和十九年九月三日		
	等級六	等級六	自昭和十九年九月十日		

所屬変更  
機密船群輸送部附

1910

所屬長官  
所見

終

軍機處

15

三次機密第一號十一、三十

大東亞戰爭功績概見表

(第五文田)

自昭和十九年三月一日  
至昭和十九年九月十日

十月二日進達

第三次機密船群指揮官海軍兵曹長 同前大佐

區分	項目	功績等級	期	間	作戰行動戰爭關係業務等	記
新榮丸	榮正丸	等級五	自昭和十九年三月一日	至昭和十九年四月十日	內地在於船體機件修理及更換	第三次機密船群
第一大成丸	新榮丸	等級五	自昭和十九年四月十日	至昭和十九年九月十日	運向軍需品輸送任務從事	編成
第七進陽丸	第一大成丸	等級五	自昭和十九年九月十日	至昭和十九年九月十日	第四艦隊所屬	解隊
所屬長官	新榮丸					
所屬	第七進陽丸					

終

(竹澤)

軍

三次機密第一號、十一、三十一

十月廿日迄達

大東亞戰爭功績概見表(第五六回)

白昭和十九年三月一日  
至昭和十九年九月十日

第三次機帆船群指揮官海軍兵曹長 同前大

區分	項目	功績等級	期	間	作戰行動戰術修練等	記	事
明榮丸	等級五	白昭和九年三月一日	内地在船体機周修理及吳橋渠	築兵機帆船群編成			
第三室玉丸	等級五	白昭和九年五月五日	同軍需品輸送任務二從事	第四艦隊所屬			
	等級六	白昭和九年五月六日	内地及小笠原同軍需品輸送				
	等級五	白昭和九年五月九日	任務二從事				
	等級五	白昭和九年五月廿日					
	等級五	白昭和九年九月十日					
所屬長官							
所見							

昭和十九年九月十日  
解隊所屬變更  
佐鎮附

海軍

軍機

三次機密第一號(十一)三十二

大東亞戰爭功績概見表(第五六回)

第三次機帆船群指揮官海軍中曹長

同前大作

記事

十月五日進達

白昭和十九年三月一日  
至昭和十九年九月十日

區分	項目	功績等級	期	間	作戦行動戰争關係業務等	記
住吉丸	等級五	等級五	白昭和十九年三月一日 至昭和十九年四月十日	内地在子船体機関修理及吳 橫濱商軍需品輸送任務從事	第三次機帆船群編成 第四艦隊所屬	
	等級五	等級五	白昭和十九年四月十日 至昭和十九年八月十九日	内地及小笠原商軍需品輸送		
	等級六	等級六	白昭和十九年八月三十日 至昭和十九年九月五日	任務二從事		

所屬長官  
所見

海軍

三次機密第一號 十一三十三

大東亞戰爭功績概見表 (第五六回)

第三次機密船群指揮官海軍少將

同前大佐

自昭和十九年三月一日  
至昭和十九年九月十日

所屬長官 所見	區分 項目	功績等級	期 間	作 業	記 事
	觀音丸	等級五	自昭和十九年三月一日 至昭和十九年四月二十日	內地三座十船機周修理及吳 橋梁商軍需品輸送任務從事	第三次機密船群編成 第四艦隊所屬
		等級五	自昭和十九年八月二十日 至昭和十九年八月二十日		
		等級六	自昭和十九年八月十九日 至昭和十九年九月四日	內地及小笠原方面軍需品輸 送任務從事	昭和十九年九月十日 所屬變更 機密運輸部附

海軍

三次機密第一號 十一三四

月 日 日

大東亞戰爭功績概見表 (第五六四)

自昭和十九年三月一日  
至昭和十九年九月十日

第三次機密艦隊指揮官海軍兵曹長

同前大佐

區分	項目	功績等級	期	間	作戰行動戰術係業務等	記	事
快運丸	等級五	自昭和十九年三月一日 至昭和十九年五月五日	内地在予船体機関修理及吳橫等天機帆船群編成	第四艦隊所屬			
朝丸	等級五	自昭和十九年五月六日 至昭和十九年五月十日	内地及小笠原方面軍需品輸送任務ニ從事				
萬吉丸	等級六	自昭和十九年五月十一日 至昭和十九年五月十五日	送任務ニ從事				
胡子丸	等級五	自昭和十九年六月八日 至昭和十九年六月八日	輸送任務ニ從事				昭和十九年六月八日 行方不明
所屬長官							
所見							

海軍

三次機密第一號十一、三十五

大東亞戰爭功績概見表(第五六回)

第三次機帆船群指揮官海軍兵曹長 同前大(備)

自昭和九年三月一日  
至昭和九年九月一日

區分	項目	功績等級	期	間	作	記
大神丸		等級五	白	昭和九年三月一日	内地三子船体機関修理及吳橫	第四次艦隊所屬
		等級五	至	昭和九年五月五日	要商軍需品輸送任務二從事	
		等級六	白	昭和九年五月六日	内地小笠原商軍需品輸送任	
		等級六	至	昭和九年五月十日	務二從事	
所屬長官		等級五	白	昭和九年八月十日	小笠原内地商軍需品輸送	昭和九年九月一日 所屬長官
		等級六	至	昭和九年九月八日	任務二從事	

竹考誌



所見

海軍

卷

軍功

三次機密第一號一七三六

十月五日進達

(竹考納)

大東亞戰爭功績概見表(第五六回)

第三次機密第一號一七三六

自昭和十九年三月  
至昭和十九年九月

區分	項目	功績等級	期	間	作	戰	行	動	戰	事	度	係	業	務	等	記																	
住	榮	五	自	昭	和	十	九	年	三	月	一	日	內地	在	予	船	機	回	修	理	及	第	三	機	組	船	編	隊	所	屬			
			至	昭	和	十	九	年	五	月	十	日	吳	橋	運	回	軍	需	品	輸	送	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬		
			自	昭	和	十	九	年	五	月	六	日	內地	在	予	軍	需	品	輸	送	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬			
			至	昭	和	十	九	年	五	月	九	日	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬											
			自	昭	和	十	九	年	五	月	十	日																					
			至	昭	和	十	九	年	八	月	十	日																					
所	屬	長	官	自	昭	和	十	九	年	八	月	十	日	內地	在	予	軍	需	品	輸	送	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬		
				至	昭	和	十	九	年	八	月	十	日	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬										
				自	昭	和	十	九	年	八	月	十	日	內地	在	予	軍	需	品	輸	送	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬		
				至	昭	和	十	九	年	八	月	十	日	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬										
				自	昭	和	十	九	年	八	月	十	日	內地	在	予	軍	需	品	輸	送	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬		
				至	昭	和	十	九	年	八	月	十	日	任	務	三	機	組	船	編	隊	所	屬										

21

海軍功績調查部長殿

第四艦隊司令部第一五號ノ九一

昭和十九年八月一日

八月八日送付

長印

相第四六二部隊參謀長殿

第四艦隊參謀長

左ノ件送付

一 功績概見書

一通

但シ步兵隊第七聯隊ニ對スル分

(別紙添)

(寫送付先)

海軍功績調查部長

(終)



海軍

別紙	區分	功績	概見書	功績等級
	歩兵	自八二〇、二〇 至八二二、一五	内南洋方面ニ在リテ同地防備區域防備警戒ニ從事 大陸命八七四號依リテ海軍司令部長官指揮下ニ入ル 「ホナハ」待機同地守備員ニ海軍部隊ニ協力	等級二
	隊	八二二、一六 八二二、一五	「ホナハ」守備協力ノ任務ヲ解キ直ニ進出準備 「クサヤ」轉進	
	隊	八三三、一四	聯合艦隊ニ投作戦兵力部署ニ編入 南洋隊ニ支隊長ノ指揮下ニ入ル	
			(南洋隊ニ支隊長ノ指揮下ニ入ル)	

(終)

海軍

軍極秘

人秘

第五艦隊司令部 三〇號ノ六

大東亞戰爭定期功績概見表 自昭和十八年十二月一日 至昭和十九年五月三日

第五艦隊司令部 第五艦隊司令長官海軍中將 志摩清英

官所見	所屬長	部	令	司	隊	艦	五	第	區	功績等級	期	間	作	記
						等級四			分					
						自昭和十八年十一月一			日					
						至同十九年五月三十一			日					
						三、アリスン方面偵察								
						監視海								
						上交通破壊								
						四對蘇警戒								
						五内戰部隊作戰協力								
						八二六旗艦ヲ白雲								
						多摩ヲ變更								
						元三〇旗艦ヲ那智								
						ニ復歸								
						九二五								
						新舊司令長官交代								
						前任								
						海軍中將河瀬四郎								
						新任								
						海軍中將志摩清英								

海軍

第一二〇一七五

### 大東亞戰爭定期功績概見表

自昭和十九年六月一日  
至同年九月三十日

第六艦隊司令部 Q 基地指揮官海軍大尉

伊東德夫 **伊東**

見 所屬長官所	區 分 目	功績等級	期 間	作 戰 行 動 戰 爭 關 係 業 務 等	記 事
	Q 基地	等級五	自昭和十九年 六月一日 至昭和十九年 九月三十日	特型戰車要員二對三教育訓練 並二戰車隊編制出張支援 業務二從事	昭和十九年九月三十日附 六艦司令部 Q 基地撤收
第六艦隊司令長官 三輪茂義					

海軍

海軍大臣府

第八艦隊司令官 海軍中將 男 壽 敏 島 貞 吉

宣統

大東西戦争定期功績概見表

自昭和十八年十二月

至昭和十九年五月

八月三十一日

第八艦隊司令官 海軍中將 男 壽 敏 島 貞 吉

功績

作戦行動戦争関係業務等記事

部	令	司
	二	
	九八三三	
	五三三	
<p>前月ニ引續キ外南洋部隊ヲ率テ 陸軍第十七軍ト協力敵ノ熾烈ナル 空襲下克スホーゲンビ全島及 北部西女地ノ確保ニ任ジ又将来輸送杜 絶ニ對應スル如ク自活態勢ノ緊急確 立ヲ圖リ概ニ其目的ヲ達成シ克ク長期 持久激撃滅敵ノ態勢ヲ確立セリ 名キ止、敵上陸部隊撃破掃蕩ノ</p>		

海軍大臣府

司

令

部

三

九  
六  
三  
四  
三  
五

要ヲ痛感シ第十七軍ニ對シ強ク之ヲ  
 從心通スルト共ニ南東方面部隊指  
 揮官ニ意見具申シ遂ニ之が敢行ヲ  
 決定セラルルヤ兵站輸送ノ強力ナル援  
 助(水偵、潜水艦等ニ依ル緊急兵器  
 ノ取寄有力ナル海軍担送隊及舟艇  
 長期派遣)及後方警戒ノ分担等  
 カノ限リ之ニ協力セリ第十七軍ニ作戰  
 目的ハ之ヲ完遂スルニ至ラザリシモ敵ニ  
 與ヘタル心的及物的影響甚深刻ナル  
 モナリ其成果ノ一半ハ當部隊ノ  
 寄與ニ依ル

右作戰ノ機務ニ從事





八月一

八艦臨増二機密第一。號一三

大東亞戰爭定期功績

第八艦隊臨増部隊第二義勇中隊長海軍大尉花田嘉三

已分項目 功績等級 期間 作戰行動 戰爭關係 業務等 記号

本隊 三 自五月一日 至五月三日

一、五月一日、ニシテ、海軍大尉花田嘉三、第八艦隊臨増部隊第二義勇中隊長として、大東亞戦争に参戦し、五月三日、敵艦隊と遭遇し、激戦を繰り広げ、敵艦隊を撃破し、戦果を挙げた。此の功績により、功績等級三と認められた。

第三小隊(新大隊) 三 自五月九日 至五月十二日

二、五月五日、東海軍第二義勇中隊長として、海軍大尉花田嘉三、第八艦隊臨増部隊第二義勇中隊長として、大東亞戦争に参戦し、五月九日、敵艦隊と遭遇し、激戦を繰り広げ、敵艦隊を撃破し、戦果を挙げた。此の功績により、功績等級三と認められた。



八月一日連達

八艦隊臨増部隊第二義勇中隊長



<p>残留隊</p>	<p>八名</p>	<p>自五月十一日 至五月十五日</p>	<p>當、為大津航路下士官四名、兵二名、工員三名、計七名戦死ス。生得者五日、隊二隊、又</p> <p>配置教育</p> <p>整備作業</p>	<p>自五月十四日 至五月十八日 海上機動</p> <p>自四月八日 至五月三十一日 RR防備</p> <p>一、機隊防備部隊命令第二七號ニ依リ、五月十一日ヨリ、ユーグランド島東南岸新築作戦、為第四小隊「シレム」ニ進出（四月七日帰投ス）</p> <p>二、R方面防備部隊信令第六七號ニ依リ、五月十一日ヨリ、五月三十一日ヨリ、ユーグランド島東南岸新築作戦、為第二小隊「ワラモア」ニ進出（四月一日帰投ス）</p> <p>三、R方面防備部隊信令第八號ニ依リ、五月十一日ヨリ、五月三十一日ヨリ、ユーグランド島東南岸新築作戦、為第一小隊「グリン」ニ進出（四月九日帰投ス）</p> <p>四、R方面防備部隊信令第九號ニ依リ、五月十一日ヨリ、五月三十一日ヨリ、ユーグランド島東南岸新築作戦、為第一小隊「グリン」ニ進出（四月九日帰投ス）</p> <p>五、五月八日機隊南東方面部隊命令本件時第一二號ニ依リ、工員五名、兵四名、兵隊員四名、隊員三名、計十五名（管成裝）ヲ第八方面軍司令部</p>
<p>本隊</p>	<p>三名</p>	<p>自五月十四日 至五月三十一日</p>	<p>自五月十四日 至五月三十一日</p>	<p>四月十六日機隊 R方面防備部隊 命令本件時第二 號ニ依リ、東部 隊本隊時上七</p>

<p>第四小队</p>	<p>三</p>	<p>自十二月二十八日 至四月七日</p>	<p>官、指揮下トシ五月工日出撃セシム</p> <p>六、R方面防備部隊信令作第八號ニ依リ、新米津 島トシテ下士官四名工員十六名(東隊)ニ派遣 シ、基地ニ進出ラ命ジ五月二十五日出撃セシム</p> <p>一、R方面防備部隊信令作第六七六號ニ 依リ、ハイエンニ附近敷定、一月二十五日終撃</p> <p>二、R方面防備部隊信令作第七九號ニ依リ、 ハイエンニ附近、防備並ニ敵諜報機開掃場 ニ從事ス</p> <p>三、R方面防備部隊信令作第七四八號ニ依リ、 四月七日Rニ帰投ス</p>
<p>第二小队</p>	<p>三</p>	<p>自十二月二十日 至四月一日</p>	<p>一、機密R方面防備部隊信令作第六一號ニ依リ、 特設防備部隊指揮官、指揮下ニ入り、 ラモアニ附近、敷定ニ從事ス</p> <p>二、二月四日同ラモアニ附近敷定</p> <p>三、R方面防備部隊信令作第七四七號ニ依リ、 四月一日Rニ帰投ス</p>

(官時地)

海軍

所屬長官  
(司令官)

所見



所屬長官  
(司令官)  
所見

爆破作業ヲ行ヒテ我々ニ對スル敵迫近死攻  
要領ヲトシテコトト島嶼中、和直方ハ連  
絡絶絶敵ハコトト島嶼ニモテ行ヒテ、  
地ニ在リテ和直方ニ對シテ、  
ニ突入ス。モミロノ通信ヲ最右連絡絶和  
田大尉以下全員出陣セルコトヲ知ル



CSF 秋家七ノ三九  
 一修各項一段  
 降下訂正  
 十件

司	隊	艦	面
上 士 官 以	艦 艇 員	電 信 員	船 員
心 算 4	功 功 特 二	編 者 ナ ル 者 3	其 ノ 他 ノ 者
昭和十八年十二月五日 陸軍省陸軍部 陸軍省陸軍部			
<p style="text-align: right;">門前山作機動力（潮）          江水船務局）          七 船用資料ノ蒐集、生          産機送          八 國民政府制甲船務局          九 船務局          六 船務局          五 船務局          四 船務局          三 船務局          二 船務局          一 船務局</p>			
リ ル 所 甚 大 ナ	上 比 加 船 務 局	ニ 比 加 船 務 局	上 比 加 船 務 局



前記以外 功績付二	會		前記以外 功績付二
	下士 自兵	文 官	
ノ准士自 以上及列 等 其ノ他ノ者	准士自以上 3 等	准士自以上 4 等	前記以外 功績付二
自昭和十八年十一月一日 至昭和十九年五月二十日	自昭和十八年十一月一日 至昭和十九年五月二十日	自昭和十八年十一月一日 至昭和十九年五月二十日	自昭和十八年十一月一日 至昭和十九年五月二十日
各所定部類（職階）ニ 在リテ奉命ヲ担任シ又 ハ上司ノ命ヲ承ケ重責 ナル職務ニ從事ス	所轄ノ見集外職務係奉 命ノ處ニ從事ス	各所定ノ職階ニ在リテ 上司ノ命ヲ承ケ重責 係職務ニ從事ス	各所定部類（職階）ニ 在リテ奉命ヲ担任シ又 ハ上司ノ命ヲ承ケ重責 ナル職務ニ從事ス
大ナリ	ナリ	各所定ノ職階ニ在リテ 上司ノ命ヲ承ケ重責 係職務ニ從事ス	各所定部類（職階）ニ 在リテ奉命ヲ担任シ又 ハ上司ノ命ヲ承ケ重責 ナル職務ニ從事ス

前記以外  
功績付二

ノ准士自  
以上及列  
等  
其ノ他ノ者

准士自以上  
3  
等

自昭和十八年十一月一日  
至昭和十九年五月二十日

各所定部類（職階）ニ  
在リテ奉命ヲ担任シ又  
ハ上司ノ命ヲ承ケ重責  
ナル職務ニ從事ス

下士  
自兵

准士自以上  
4  
等

所轄ノ見集外職務係奉  
命ノ處ニ從事ス

ナリ

文  
官

准士自以上  
3  
等

自昭和十八年十一月一日  
至昭和十九年五月二十日

各所定ノ職階ニ在リテ  
上司ノ命ヲ承ケ重責  
係職務ニ從事ス

前記以外  
功績付二

准士自以上  
3  
等

自昭和十八年十一月一日  
至昭和十九年五月二十日

各所定部類（職階）ニ  
在リテ奉命ヲ担任シ又  
ハ上司ノ命ヲ承ケ重責  
ナル職務ニ從事ス

CSF 檢定七三九  
= 依訂正

支那法機審第二號ノ一三

大東亞戰爭定功績概見表  
自昭和十八年十二月  
至昭和十九年五月三十一日

支那方面機審軍法會議  
支那方面機審軍法審中佐  
山田龜之

支那方面機審軍法會議

功績等級別  
4  
等

期間  
自昭和十八年十二月  
至昭和十九年五月三十一日

作戦行動戦役關係職務等  
本期間内ニ於テ處理シタル戦役關係  
部内ノ主ナルモノ左ノ如シ  
一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
二十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
三十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
四十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
五十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
六十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
七十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
八十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十一 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十二 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十三 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十四 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十五 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十六 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十七 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十八 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
九十九 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム  
一百 犯内ノ外官ニ於テ檢査ニ努ム

記  
犯内事件ニ就テ現地タル特務事情  
ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒ可及的進ニ  
之カ處理ニ當リ特ニ關係部隊軍紀  
風紀ノ維持ニ留意シ部内外關係官  
憲ト連絡ヲ執リ査察ヲ勵行シ士氣  
ノ振興ヲ成メタル外當ニ抗日ノ開  
謀、赤化ニ關スル情報ノ入手速報  
ニ努メ之等分子ノ策動ヲ嚴戒シ且  
法ノ不知ニ基固スル部内者ノ進行  
除去並運居者ヲシテ進駐ナカラシ  
ムルコトニ努ムルト共ニ敵性國人  
ノ民事刑事裁判ニ貢獻スル處大ナ



海軍

CSF  
校  
訂  
止

支那方面	同
4	同
自昭和十八年十二月一日	同
<p>本期間ニ於テ處理シタル戰役關係業務ノ主ナルモノ左ノ如シ</p> <p>一 軍關係事務ノ處理本期間ニ於テル檢察受遺ハ三五件一二一人審判處分ヲ請求セルモノ二五件七一人</p>	<p>一 防諜關係事務處理</p> <p>探報、謀略、抗日分子ノ策動ニ關シテハ部内外官憲ト密接ナル連絡ヲ保持シ未然防止並檢査ニ努ム</p> <p>一 法律的相談事務ノ處理</p> <p>部内者ノ民事刑事其ノ他軍關係諸法令ニ關スル相談ニ應シ適切ニ處理セシム</p> <p>一 涉外審判事務ノ處理</p> <p>領事館ト連絡ヲ密ニシ敵性國人ノ民事刑事裁判事務ノ指導監督ヲナシ其ノ實績ヲ擧ケシム</p>
<p>關係官憲ト密接シ情報ノ探知蒐集ニ努ム關係方面ニ通報報告ヲ爲シ以テ占領地域及警備區域内ニ於ケル抗敵抗日關係又ハ治安經濟恐慌ヲ目的トスル不逞分子ノ支離ニ努ム軍ノ保全</p>	<p>事リ</p> <p>以上ヲ綜合シ本期間内占領地警備區域ニ於ケル治安並軍紀風紀ノ維持ニ關シ寄與スルトコロ大ニシテ其ノ功績極メテ顯著ナリ</p>

海軍

所屬長官 所見	隊軍備處分會議
	<p data-bbox="1283 827 1473 1010">至昭和十 九年五月 三十一日</p> <p data-bbox="1441 1040 1555 1712">不審判處分ヲ爲シタルモノ一七件五 〇人ナリ</p> <p data-bbox="1420 1742 1535 2398">並占領地及蕃備區域ノ治安確保ニ 貢献シ其ノ功績顯著ナリ</p>

海軍

(大東)

軍機秘

海軍軍事顧問部

支那方面艦隊司令部 附  
中華民國軍事委員會海軍首席軍事顧問

海軍中將 前田

至同 十九年五月三十一日

授入

區分項目	功績等級	期間	作戰行動戰役關係業務等	記
支那方面軍事顧問	5	自昭和一九二二一 至昭和一九五三一	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、新中國海軍ノ育成指導</li> <li>二、帝國海軍ト中華民國軍事委員會並ニ現地各機關トノ連絡協調</li> <li>三、支那沿岸ノ水路啓發並ニ治安警備ノ輔導ノ任ニ當リ日支共同防衛ノ使命遂行</li> <li>四、國民政府航空署並ニ空軍學校ノ育成指導</li> </ul>	<p>上記ノ諸業務ニ從事シ帝國國策遂行ニ寄與シ國民政府軍事ニ關シ克ク育成指導シ其ノ功績顯著ナリト認ム</p>

CS/ 檢定七、三三九  
二修訂正

19.9.21

中華民國  
軍事顧問部  
首席

昭和二十五年  
五月三十一日

所 所 見 輔 長 長	附 部 令
	服 承 問 顧 託 嘱 監 面 方 部 支
	5
	自昭和一九二二一 至昭和一九五三一
	顧問ヲ克ク輔佐シ各種要務ニ 従事ス
	各其ノ職責ヲ盡シ任務遂 行ニ寄與セル所大ナリ

秘

總務大臣 敕  
中東亞戰線第五一號

六月一日進達 名取

### 大東亞戰線定期功績概見表

奉命高麗軍司令部 支那方面軍司令部 支那方面軍司令部  
(中東亞戰線司令部) (中東亞戰線司令部) (中東亞戰線司令部)

名取 顯 幸 名取

功調  
19.9.21  
按

35

CSF 板名七三九  
= 依訂止

區/項目	功績等級	期	間	記
所屬	中央軍訓練所	等級	5	中國海軍司令部、技術教育隊、補導主任、講教材、蒐集、各種教科書、編纂、水陸諸施設、整備等、從事、 シ中國海軍力、擴充、強化、 シ中國、以テ大東亞戰線、 進行、於ケル中國、 海軍、使命達成、 等也。
功績等級	5	五九、五三一		一、上記要務二從事シ中國海軍育成、 上、要務スル所大ニシテ其功績優、 秀ナリ、 二、特務主任、其教、育、 状況、左、 通、
間				第一、九、期、八、二、一、八、二、五、一、〇、 第二、十、期、三、一、二、六、五、五、三、〇、 第三、期、七、六、九、一、五、五、一、五、 第四、期、七、六、九、一、五、五、一、五、 第五、期、七、六、九、一、五、五、一、五、 第六、期、七、六、九、一、五、五、一、五、 第七、期、七、六、九、一、五、五、一、五、 第八、期、七、六、九、一、五、五、一、五、 第九、期、七、六、九、一、五、五、一、五、 第十、期、七、六、九、一、五、五、一、五、

所屬長官

所見



秘

中央海軍學校  
三〇、可正

36

區分項目	功績等級	期間	作戰行動戰爭關係業務等	記事
中央海軍學校	等級 5	自一八二一 至一九五三	中國海軍士官學生、育成輔導二任、中國海軍力、擴充強化、圖、又中華民國大東亞戰爭參戰、中國海軍便令達成、副導二從事	上記要務ニ從事、其功績優秀ナリ
所屬長官				
所見				

大東亞戰爭定期功績概見表

(自昭和十八年十二月一日至昭和十九年五月三十一日)

支那方面艦隊司令部  
(中央海軍學校)

支那方面艦隊司令部  
(中央海軍學校首席輔導官)

海軍少將 森徳雄

二七

六月十五日進達

功績  
19.9.21

(補闕)

表

表

支那方面艦隊機密第七號ノ二二九

昭和十九年九月四日

支那方面艦隊司令長官



9.26 授受

功績概見表ノ件送達

一 大東亞戰爭定期功績概見表

至昭和十九年五月三十一日

一括

但シ左記ノ通功績等級シ降下日升格スルヲ至當ト認ム

記

一 功績等級降下ノ分

幕僚以外ノ功績等級各級降下 支那方面艦隊司令部

「等級三」シ「等級四」ニ〇 支那方面艦隊司令部會議

「等級四」シ「等級五」ニ〇 第一海軍刑務所

「等級二」シ「等級四」ニ〇 上海在勤海軍武官府

訂正ス

一九三〇

海

軍

各項功績等級各二級降下	○第一海軍軍用郵便所
「等級三」	○第二氣象隊 (三亞支隊ヲ含ム)
「等級四」	○第一海軍病院
「等級五」	○上海海軍航路部 (上海九江漢口白沙測量及測量艇二隻ヲ含ム)
「等級三」	○第一海軍工作部 (早瀬・飛渡瀬及漢口分工場ヲ含ム)
「等級四」	○海軍運輸部 (青島支部ヲ含ム)
「等級三」	○第一海軍軍需部 (南京九江漢口配給所及青島支部ヲ含ム)
各項功績等級各一級降下	○第一海軍經理部 (漢口出張所及香港青島支部ヲ含ム)
各項功績等級中文官以上各一級降下	○北京在勤海軍武官府
各項功績等級中文官以上各一級降下	○中央海軍訓練所
各項功績等級中文官以上各一級降下	○漢口在勤海軍武官府
各項功績等級中文官以上各一級降下	○中華民國軍事委員會海軍首席顧問部

海軍





軍機秘

大東亞戰爭定期功績概見表

自昭和十八年十二月一日  
至昭和十九年五月三十一日

第二遣支艦隊司令部 第二遣支艦隊司令長官副島大助

41

区分	項目	功績等級	期	間	作戦行動概要	記
		等級二	昭和十八年	十一月	引續東南支方面ノ諸作戦 (作戦地域下記ノ通)ノ計畫並ニ ニ指導ニ任ズ	第一遣支艦隊作戦 担任也
					實地ニ作戦概ナク左ノ通	北濱列島ノ通
					全期間ニ亘リ沿岸封鎖担任	一〇・度摩支隊
					巴域ノ海上交通保護及ニ封鎖	六六ノ和支隊
					封空警戒並ニ索敵攻撃ノ哨戒	支隊本部

3

支那事變第

回上奏

功績明細書

上奏番號  
自至

115 D...

大東亞戰役（第五回）功績概見表（六次）

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	綴順
支那方面艦隊	第九	第八	第六	第五	第四	第三	第二	第一	聯合艦隊	聯合艦隊	廳
含 中法會隊 中央海軍 水兵訓練			含 臨時部隊 或雷中隊			含 卜ラ、防備部隊 第三支隊九部隊	元三、一校動隊縮成 （一校F、含）		元二、一王解隊		

23	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	綴順
第一機動艦隊	中部太平洋方面艦隊	南西	南東	北東方面艦隊	第四	第三	第二	第一南遣艦隊	第二遣支艦隊	第一南遣艦隊	廳
（三艦司、有）	（九、二、一、改）	（九、二、一、改）	含 軍區公派	第一、一校空艦隊 含 軍法會議、特種博元	第十二軍空艦隊			含 斷屬空艦隊	含 軍法會議、海外部長 附屬艦	含 軍法會議	

自昭和十八年十二月二十日

西洋全案十三



35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	2
第 二	第 一 水 雷 戰 隊		第 二 十 二	第 十 八	第 十 六	第 十 四	第 十	第 八	第 七	第 五	第 三	
				一 九 一 一 編 成		一 九 一 四 編 成		一 九 一 一 編 成				一 九 一 一 編 成
48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
			吳 練 習 戰 隊		吳	第 十 一	第 八	第 七	第 一 潛 水 戰 隊		第 十 一	第 三 水 雷 戰 隊
			一 九 一 一 編 成		一 九 一 一 編 成							

一九一七·五〇·一

軍極秘

九月十五日進

聯合艦隊司令部

聯合艦隊司令長官

豐田

田

副



大東亞戦争功績  
自昭和十八年十一月三十一日

項目	功績等級	期	内容	記
其ノ他ノ者	等級三以下	自昭和十八年十一月九日	トラツク方面ニ在リテ全作戦指導ノ職務ニ従事	一、一九一三年一月三日、南西方
其ノ他ノ者	等級二	自昭和十九年二月二十三日	トラツク方面ニ在リテ全作戦指導ノ職務ニ従事	至四月一日、南西方
其ノ他ノ者	等級三以下	自昭和十九年二月二十三日	航全作戦指導ノ職務ニ従事	至五月三日、南西方
其ノ他ノ者	等級二	自昭和十九年三月十一日	航全作戦指導ノ職務ニ従事	至五月三日、南西方
其ノ他ノ者	等級三以下	自昭和十九年四月一日	東亞其ノ他ニ於テ全作戦指導ノ職務ニ従事	至五月三日、南西方
其ノ他ノ者	等級二	自昭和十九年四月一日	東亞其ノ他ニ於テ全作戦指導ノ職務ニ従事	至五月三日、南西方

海軍



九五五

南支沿岸封鎖作戰	南支沿岸封鎖作戰
(一) 封鎖作戰計畫指導	廣汎ナル海域ニ亘リ
(二) 南支沿岸(分担区域ハ初頭)	以テ困難ヲ辨シ
記事欄掲記ノ封鎖ニ依リ敵	連絡ヲ断リ且敵ヲ
軍需物資ノ搬入阻止	監視ヲ行ヒ敵ノ海上
(三) 敵性船舶ノ監視警戒同拿捕	ヨリノ軍用物資ヲ見守
抑留密輸或モ臨檢拿捕	要物資ノ搬出入ヲ不能
(四) 敵港灣ノ封鎖監視及沿岸	ナリシノ重要施設ヲ及
島嶼ノ占據地域ノ確保	在支米軍ノ抗戰力
(五) 敵艦艇航空機等ノ沿岸及島	減殺並ニ戰意破砕ヲ
嶼ノ利用阻止	資スル所極メテ大ナリ
(六) 澳門周辺監視強化	現下政情情勢ニ據リ
	第三圖ノ如ク監視ヲ

海軍

大  
五  
五  
一

南支航空作戰

長  
ニ  
ミ  
リ

(一) 航空作戰、計畫並ニ指導

(二) 在支米空軍ノ擊破撃攘

(三) 航空機ニ依リ輸送船團ノ航路上

ノ對空對潛警戒及直接護衛

(四) 分担區域洋上ノ對潛索敵攻撃ヲ大ナリ

並ニ敵潛ノ沿岸利用阻止

(五) 沿岸艦艇ノ發動制圧

上記任務ヲ完全遂行

以テ作戰目的達成

成上資スル所極大ナリ

大ナリ

八十一  
五五三

海上交通保護

(一) 輸送船團 (陸軍、民船含む)ノ

直接に間接護衛

(二) 航路ノ確保

(三) 分担区域内、海底電線及航

路標識ノ保守

(四) 救難

敵空軍ノ敵泊ノ跡取セリ

担任海域ノ麾下艦艇並ニ

航空兵力ノ全力ヲ舉ゲテ

完全制圧シ且北東信風地

ニ兩期ノ急天候ヲ冒シ輸

送計画策定指導等ヲ高

全ノ方策ヲ樹テ即應未

断克ク海南島一香港

一高雄間ノ策劃ヲ行

衛任務ヲ任ジ陸軍兵力

及物資ノ輸送補給任務

ヲ完遂シ作戰目的上多大

ノ効果ヲ發揮シタリ

海軍

九  
五  
五

封潜封空警戒(攻撃)

(一) 来襲、敵空軍ノ、撃墜撃破

(二) 出現敵潜、索敵掃海

(三) 封潜封空警戒

分投ニ成、封潜封空警戒

ヲ最ニシ

厚出撃シ来ル在支未空軍

ヲ撃墜撃破シ左ノ戦果ヲ

舉ケテ

一、撃墜撃破数

爆撃機

〇四  
〇五

戦闘機

八機

二、撃破(大破)機数

爆撃機

〇三  
〇一

戦闘機

一機

計

七

十八  
五十一

陸軍部隊トノ協同連絡

(一) 攻撃團ト協力敵航空機ノ撃墜  
敵艦ノ奉勅完封等ニ任ズ

(二) 第三船形輸送司令部香港支  
部ト協力海上交通保護船形  
修理建造等ニ任ズ

(三) 香港占領地総督部軍政施行  
ニ関シ副担任トシテ之ニ參與スル  
共ニ總督部管下防衛ニ関シ密  
接ナル協同連絡ニ任ズ

母  
軍



十八  
五十一

復興建設等

(一) 新占領地域ニ於ケル復興再建

設ニカ活用等ノ計畫指導

(二) 中國諸機關ノ建設支援及指導

並ニ新中國海軍及民軍ノ育成

指導

(三) 占領地域ニ於ケル諸施設ノ設置管理

運管及資源調査

(四) 占領地域ニ於ケル宣撫工作

(五) 部外關係各部トノ連絡並ニ協

力

(六) 情報ノ蒐集

(七) 諜報及宣傳

上記任務ヲ達成スル

進行シ討正作戦上

多クノ成果ヲ收メタリ

海軍



南支部隊兵力部署 (十二月一日現在)

区分	指揮官	兵力	分擔區域	主要任務
主隊	第二遠征隊 司令長官	橋立 初雁 南支飛行機隊(中)	金城	一、敵艦艇航空機等ノ沿岸及島嶼 到甲限上 二、南支長途面ニ於ケル海上交通ノ保護 三、敵艦艇航空機ノ確保並ニ非占領地 ノ確保 四、南支重要物資獲得ノ確保 五、非占領地ノ軍需物資補給 ノ遮断 六、敵國空軍ニ對シテハ中立國和 平ノ維持ヲ期スル 七、廈門港ノ防備 八、廈門鼓浪嶼金門 小金門並ニ川石各島ノ確保 九、敵艦艇航空機等ノ沿岸及島嶼
方面	廈門方面 特別根據地 地隊司令官	廈門方面特別 根據地隊 特種嵐山丸	北嶺島ヲ通ズル 一四〇度線以南 蓮花峯ノ角ヲ 通ズル一八〇度線 以東ノ支那沿岸	
部隊		南支飛行機隊(中)		

記事	東沙島 連作隊	部隊	方面	香港
〔 〕 内ハ他部隊ヨリ南支部隊ニ作戦協力中ノモノヲ示ス			香港方面 特別根據 地隊司令官	
	〔高雄方面進軍〕	廣東警備隊	香港方面特別 根據地隊 特務 監禁丸 特務 東地丸	香港方面特別 根據地隊 弄子
			蓮花峯中ヲ 通スル度線 以西ニハイナシト 以東ニ至リテ岸	
	一 東沙島ノ守備 二 氣象觀測地ニ通報	六 廣東(黃埔)ヲ含ミ陸軍ト協力 三 越島(牛角山)南門島ヲ確保 七 陸軍ト協同シテ珠江(三門)地 帯ヲ含ミ東江(西江)ノ水路確 保(中國海軍ト協力)	五 香港(陸軍ト協力)及廣州灣 (陸軍ト協力)トノ防備 地ニ警備	三 浙省海面ニ於ケル海上交通保護 航路標識ノ確保並ニ非占領地 ヨリノ重要物資獲得ノ確保ヲ 企テ

利用程度と

南支那部隊兵力部署一覽表

区分	指揮官	兵力	備註
主隊	第三近衛師團 司令長官	初雁 (連)	南支那方面特別根據地隊 (南支那第一飛行機隊)
廈門方面	廈門方面特別根據地隊	廈門方面特別根據地隊 特別編成島山丸 南支那第一飛行機隊	北濱島ヲ通スル 一四〇度線以南 蓮花峯一帯ヲ 通スル一八〇度線 以東ノ支那沿岸
部隊			一 敵艦艇航空機等ノ沿岸ノ見島等 二 敵通商航線等ノ制壓 三 敵艦艇航空機等ノ沿岸ノ見島等 四 敵通商航線等ノ制壓 五 廈門一帯ノ防備 六 廈門鼓浪嶼金門 小金門竝ニ川石各島ノ確保

一 敵艦艇航空機等ノ沿岸ノ見島等  
二 敵通商航線等ノ制壓  
三 敵艦艇航空機等ノ沿岸ノ見島等  
四 敵通商航線等ノ制壓  
五 廈門一帯ノ防備  
六 廈門鼓浪嶼金門  
小金門竝ニ川石各島ノ確保

記事	東沙島 清隊	部隊	方面	香港
「」母他部隊より南支部隊	「高麗島南支隊」	特別根據 地隊司令官	香港方面 特別根據	香港方面
作防力中 作防指揮下	一 東沙島ノ守備 二 氣象観測地ニ連絡	廣東警備隊	香港港務部	香港方面特別 根據地隊
			以東支那沿岸	蓮花峯南支 通三八度線 以南三八度以下
		六 廣東(香港)ヲ含ミ陸軍ト協力)	五 天津(陸軍ト協力)及廣州湾 (防軍ト協三件軍ト協力)トノ防備	四 敵國駐在之港ニ入リテ中立國船 ノ遮断
		七 陸軍占據地域内ノ珠江(三州)地 帯ヲ含ム)東江北江西江ノ水路確 保(中國海軍ヲ込)	三 江島牛角山南門島ノ確保	三 非占領地域ノ軍需物資ヲ捕給 ノ遮断 二 非占領海面ニ於ケル海上交通保護 航路保護ノ確保並ニ非占領地域 ヨリノ重要物資ヲ獲得ノ確保 合々

利用阻也

合々

備考 新旧区分中 (主隊) の作戦指揮下にスリタルモノヲ示ス

変更月日	旧区分	新区分	兵力	記事
昭和十八年十二月一日	香港方面部隊	除籍	特掃 筑紫丸	八二四
昭和十九年一月十四日	海南警備府 (二五四空)	除籍	南支第一飛行機隊 (水偵四) 南支第二飛行機隊 (改稱)	沈没
二月五日	廈門方面部隊	除籍	南支第二飛行機隊 (艦隊六)	沈没
二月十五日	海南警備府 (二五四空)	除籍	南支第二飛行機隊 (艦隊二) (兵力増加)	沈没
三月十日	香港方面部隊	除籍	特掃 原地丸	沈没
四月十日	(主隊)	海南警備府 (二五四空)	南支第二飛行機隊 (艦隊二) (兵力削減)	
五月十七日	上海方面根拠地隊 (二五六空)	(主隊)	南支第二飛行機隊 (艦隊五)	
五月十九日	(主隊)	海南警備府 (二五四空)	同 隊 (艦隊六)	
五月二十七日	上海方面根拠地隊	(主隊)	連	

部一四有 変更

昭和十八年十二月一日  
昭和十九年五月三十一日

第二遣支隊幕僚事務分擔表

符合		符		配		置	
氏官名		姓		職		位	
參謀長		甲		乙		丙	
首席參謀 島内大佐		一、全 二、海上交通保護 三、沿岸封鎖 四、特殊作戰		一、通 二、運輸(一部) (特殊工作班關係) 三、諜報諜略		一、機關工作整備 二、敵 三、敵 四、敵	
全		全		全		全	
戰警備		戰		戰		戰	
軍政		軍政		軍政		軍政	
策		策		策		策	
教育訓練		教育訓練		教育訓練		教育訓練	
隊務		隊務		隊務		隊務	
一、全 二、軍紀風紀 三、賞 四、罰		一、全 二、軍紀風紀 三、賞 四、罰		一、全 二、軍紀風紀 三、賞 四、罰		一、全 二、軍紀風紀 三、賞 四、罰	
一、涉外事項 二、特務班關係		一、涉外事項 二、特務班關係		一、涉外事項 二、特務班關係		一、涉外事項 二、特務班關係	
一、日課週課		一、日課週課		一、日課週課		一、日課週課	



敵產、戰利品押收品、物資蒐集関係	一、艦艇及航空機、整備所並ニ 現状調査 二、諸施設関係 三、資材関係	艦隊機関長	丙 機関參謀 三浦少佐	丁 副官 今村三太郎
		艦隊軍醫長	乙 一、奉命 二、運輸 三、水陸施設 四、宿營施設整備	丙 一、防諜 二、宣傳
		艦隊主計長	一、戰利品押收品 二、船舶車輛 三、工務場 四、工務 五、師復審檢 六、賠償價	一、在野軍人 二、神社塔碑 三、郵便電信 四、定期航空
		艦隊主計長	參謀聯絡 一、機関聯絡 二、工作術 三、航空術(即整備) 四、應急術 五、體育	一、廢物識別 二、人事功績 三、接待差使隨從 四、作戰諸記録 五、圖書 六、恤兵慰安
	一、財政金融関係 二、恤兵金品関係	艦隊主計長	二、押番丹規 三、兵備口(圖書) ヲ除ク 四、戰果被害統計	

九二號

大東亞戰爭定期功績概見表

自昭和十八年五月一日  
至昭和十九年五月三十一日

第一遣支艦隊軍法會議首席法務官海軍法務大尉堀川多

區分項目

功績等級

期間

作戰行動戰爭關係業務等

記事

第一遣支艦隊

等級四

自昭和十八年  
十二月一日  
至昭和十九年  
五月三十一日

一 刑事事務關係  
犯罪未然防止ニ付テハハ領地タル  
特殊性ニ鑑ミ特ニ深甚ナル注意  
ヲ拂ヒ當軍法會議執務地タル香  
港ニ在リテハ法務官自ラ各部隊  
及憲兵隊ト連絡ニ當リ且部下  
職負ヲ督勵シ香港憲兵隊本部  
並各地區隊ト緊密ナル連絡ヲ保持  
シ又廣東方面ニ於テハ同地ノ海軍部

効果アリシト認ム



隊及憲兵隊ト連絡シ廈門方面  
ニ於テハ廈門分廷法務官ヲシテ在廈  
門各警察寮機關ト緊密ナル連絡  
ヲ保持セシメ極力犯罪防遏ニ努  
ムルト共ニ事件發生ノ際ハ適正迅  
速ナル處理ヲ遂ゲ軍ノ行動ニ支  
障ナカラシメタリ

而シテ本期間中事件トシテ取扱ヒ  
タルモノ四件十名(別表第一参照)  
ニシテ特ニ軍人ニ對シテハ現下ノ時局  
ヲ認識セシメ其ノ自覺ヲ促シ幹  
部ノ指導等ト相俟テ所期ノ効果  
ヲ收メ得タリ

二重に命令違反及事件關係

帝國海軍、占領地域内ニ於ケル抗敵回謀又ハ治安攪乱ヲ目的トスル不逞抗日分子、莫除ニ努メ軍ノ保安並ニ占領地ノ治安維持ニ任ジ香港ニアリテハ總督部憲兵隊及香港方面特別根柢地隊廈門ニアリテハ廈門海軍警察隊、廈門特別市政府警察廳在廈門日本帝國總領事館警察署トノ連絡ヲ密ニシテ警察機關ノ相互協調ヲ圖リ其ノ職能ヲ遺憾ナク發揮セシムルト共ニ當軍罰處分

效果ナリトモト認ム

<p>懲罰事案ニ付テハ責任ノ程</p>	<p>四懲罰関係</p>	<p>三、合手捕（抑留）船船関係          法務官命令ニ依リ拿捕（抑留）船          船ノ調査並ニ處理ニ関シ香港          厦門方面特別根據地隊司令官          ヲ輔佐シ適正妥當ナル調査處          理ニ當リタリ</p>	<p>第二第三参照ニ違ヒタリ</p>	<p>取扱ヒタルモノ十七件四十三名（別表          ツツアルガ本期間中事件トシテ</p>	<p>令議ニ於テハ事件ノ迅速且適正ナル          處理ヲ圖リ着々其ノ效果ヲ收メ</p>
<p>效果ナリシト認ム</p>			<p>效果ナリシト認ム</p>		

度石範圍ニ付意見ヲ開陳シ  
或ハ次資料ヲ提供シテ懲罰令  
運用ノ適正ヲ圖リ以テ軍紀風  
紀ノ維持振肅ニ遺憾ナキヲ  
期スルト共ニ事故防止ニ努メタリ  
其情報關係

效果アリシト認ム

香港・厦門・敷浪嶼及其ノ附近ニ  
於ケル抗日不逞分子ノ策動住民  
ノ動向思想・經濟大陸ニ於ケ  
ル敵ノ情勢其ノ他各般ノ情報  
ヲ入手シテ主要ナルモノハ關係官署  
ニ通報シ之ガ対策樹立ニ資セリ  
六軍機保護防諜流言飛説ノ取締關係

效果アリシト認ム

香港厦門ニ於ケル通信記者  
其ノ他在留邦人ノ言動ニ付査一  
察内偵シ以テ軍機保護防  
諜並ニ流言飛語ノ防止ニ適  
慥ナキヲ期シタリ

七排日抗日思想取締固係  
香港憲兵隊本部並ニ各地  
區隊及在厦門各警察機  
關ト緊密ナル連絡ヲ保持シ  
ツツ排日抗日思想ノ警防  
ニ任ジタリ

警察リシモノト認ム

(終)

所屬長官  
所見

參  
艦隊司令長  
大尉

海軍





別表第二

自昭和十八年三月五日  
至同十九年五月五日

支那軍用物資  
及軍用人員之  
運送件一覽表

犯行名	件数	人員
軍用物盜奪	七	二四
軍事行動妨害	一	三
間諜	二	四
秩序紊亂	三	五
放火	一	一
強奪	二	二
殺害	一	四
合計	十七件	四十三名

表第二

自昭和十八年十月一日  
至同十九年五月三十一日

車前合違反及處理狀況

合計	証據不十分 他處移送	審判有罪	死	件數	人負
		追放	禁業	四	一
十三件		一	三	四	五
三十三名		一	三	四	五

本期中未済事件四件七名アリ

注

算

海軍大臣殿

三十一、二〇二

大東亞戰爭定期功績概見表 (自昭和十九年五月三十一日)

南洋艦隊司令長官海軍中將 田結根

項目 功績等級 期 月 作戰行動關係業務等

第一 南 遣 艦 隊

等級 二

自一八、三、一  
至一九、五、三一

一、西方部隊トシテ馬來、英領ボルネオ、スマトラ、ビルマ、アンダマン群島、ニコバル諸島、タイ、佛領印度支那方面ニ於テ對空戰闘、索敵攻撃防備警戒、邀撃帶、整備、通信、軍隊軍需品、輸送、航空基地、設營、防衛建設、氣象觀測、諜報宣傳、謀略等、計畫指導ニ関スル機務及業務ニ從事ス

記 事

直

司令部

海軍

二、印度洋、大東亞海、於此海上交通保護、衛索敵攻擊、警戒等ノ計畫指導ニ関スル職務及業務ニ從事ス

三、海上交通保護及對潛掃蕩攻撃ニ從事ス

敵潜水艦撃沈 十一隻  
同 撃破 三隻

四、對空警戒、來襲敵機ノ撃攘ニ從事ス

敵飛行機撃墜 三十三機  
同 撃破 一機

三五九四

大東亞戰爭定期功績概見表

自昭和十八年十二月一日起至昭和十九年五月三十一日

八月二十九日

第一南遣艦隊

軍法會議首席法務官

海軍法務大尉

小森 武介

區分項目功績等級期間

作戰行動戰爭關係業務等

記事

第一南遣艦

三

自昭和十八年十一月一日至昭和十九年五月三十一日

前導引續十部内官憲一連給維持防謀方  
此二努力艦隊整備備已城内海軍維持防謀方  
意之一般軍事警察思想警察ヲ掌理  
此外作戦部隊及占領地整備備已城内  
二部之犯罪軍律及事件處理ニ任シ軍  
紀調束ノ維持振奮ニ資シ占領地  
治安確保至海軍利益ノ擁護ニ當リ

海軍法會議

自昭和十九年五月三十一日

ト共ニ特ニ概要ノ個所ニ軍律會議分廷ヲ  
設置シテ抗日不逞分子間諜等ノ核譽處  
罰ニ任シ之カ按年約決際ニ努メ其ニ穩密策動  
ヲ計シ固テ以テ作戰地軍法會議トシテ任務  
達成ニ邁進セリ

達成ニ邁進セリ

海軍

所屬長  
官所見

第一區...

(終)

海  
軍

大東亞戰爭定期功績概算表

自昭和十八年五月一日  
至昭和十九年五月三十一日

八月九日

第一南支隊隊長  
藤田龍也  
海軍少將 黒木剛

海軍少將 黒木剛  
海軍少將 黒木剛  
海軍少將 黒木剛

區分 項目 功績等級

頭

間 作戦行動戰中關係業務等

部 事

西貢 海防

自昭和十八年十一月八日  
至昭和十九年五月三十一日

（一）日印軍事協定之基

對佛地施策之實施及重要

軍需資材之獲得工作並宣

傳放送謀略工作之從事

（二）對濠洲宣傳工作實施並

對印度宣傳工作之協力

（三）西貢佛印工廠之於日本艦

船及船舶之對之補修修理及

三

海軍



同	河内 所内	西 貢	所属長官	所見
同	同	同		
同	同	同		
同級並に民間工場に於ける木造 船建造工事指導、所要資 材蒐集釋放等に従事	二、佛印に於ける作戦部隊に協力し 多岐に渉る外事項、處理に従事	三、北部佛印諸港に日本船舶に對し 保護及監視等に従事	四、西貢考査並に佛印沿岸に於ける 船舶、保安に關する日佛印 協定締結並に實施	

第一南進艦隊司令部 田結 謹啓

終

昭和十九年十二月六日  
西貢十九年九月廿一日



所見	所屬長官	自元四一九 至元五三二	元四八	自元三一九 至元四一七	其人員輸送在國護衛是 事 昭南「九平」彼南則軍需品 其人員輸送及第三「魚雷艇 隊」九平「進出掩護」從事 彼南港外「於」敵者攻擊中解 雷沈控 揚荷其「船体浮物」作業「從事」
----	------	----------------	-----	----------------	--

海軍

（海軍部）

5

一月二十日進

大東亞戰爭定期功績概見表 (通稱) 一九四一年五月二十一日

第三南遣艦隊機密第五二號

海軍少將鳥越新

正分	功績年級	期	間	作	事
----	------	---	---	---	---

東南遣艦隊

司令部

特設補給

補給

田野丸

早級三

由八二二  
由八二二  
由八二二  
由八二二

佐藤保良軍港於在要準備從事  
佐藤保良南間軍需品輸送  
並船團護衛從事

由八二二  
由八二二  
由八二二  
由八二二

整備從事  
臨南「タル」間軍隊軍

由八二二  
由八二二  
由八二二  
由八二二

需品輸送善形國護衛從事  
カニラ中心上志軍隊軍需品輸送

由八二二  
由八二二  
由八二二  
由八二二

送兵船團護衛從事  
カニラ

送兵船團護衛從事

海軍

人事局

61

并属長官  
并見

一九、三、八	對者掃蕩、從事、敵者、則、
自一九、五、二二	昭南、カ、シ、向、軍、隊、軍、需、品、輸、送
至一九、五、二八	至、飛、田、護、衛、事、
一九、五、二八	敵、者、水、龍、下、交、戰、根、雷、先、没

（一）

軍機

第二南造艦隊機密第六九號一〇四  
大東亞戰爭定期功績概見表

第二南造艦隊員長穴海軍中將三川軍

自昭和十八年十二月一日  
至昭和十九年五月五日

區分	功績等級	期間	記事
第一	第一	自一八二一 至一九五三	東印部隊(第一南造艦隊編入部隊) ヲ指揮シ左ノ作戰及業務ニ從 事ス
第二	第二	自一八二一 至一九五三	地上防空兵力見張機関ニ 航空兵力ニ依ル敵機邊撃 第一線要地ニ重要資源 補給地帯ノ防空
第三	第三	自一八二一 至一九五三	敵ノ反攻上陸企圖ニ對シ 第一線要地ニ對シ防衛確保
第四	第四	自一八二一 至一九五三	一線要地ニ對シ防衛確保

記事

昭和十九年

五月三十日附

第三四根據

地隊ノ編入

ニ伴ヒ右

ニ島ノ左

ニ島ノ右

ニ島ノ左

ニ島ノ右



大東亞戰爭定期功績概見表

南西方面艦隊軍法會議

第二南遣艦隊軍法會議

區分	項目	功績等級	期間	功績概見	備考
南西方面艦隊軍法會議	南西方面艦隊軍法會議	四	自昭和十八年十一月一日至昭和十九年五月三十一日	作戰行動戰爭關係業務等 本期間中取扱タル所掌事項左ノ如シ 一關係法制ノ整備等 二南西方面艦隊軍律及之ヲ審判規則ノ改正ヲ起業シ前者ハ昭和十九年二月九日發令者ハ同年三月九日夫々艦隊法令ヲ以テ改正規程發布セラレタリ 三海軍軍法會議法第一條ニ該當セザル日本帝國臣民ノ犯シタル帝國刑罰法令違反ノ行為ニシテ海軍軍法會議法第六條	南西方面艦隊軍法會議(昭和十八年十一月一日至昭和十九年五月三十一日) 第二南遣艦隊軍法會議(昭和十九年二月九日發令)
第二南遣艦隊軍法會議	第二南遣艦隊軍法會議	〃	自昭和十九年一月一日至昭和十九年三月三十一日	同上	同上
軍法會議(第一南遣艦隊)	軍法會議(第一南遣艦隊)				
軍法會議(第二南遣艦隊)	軍法會議(第二南遣艦隊)				
軍法會議(第三南遣艦隊)	軍法會議(第三南遣艦隊)				
軍法會議(第四南遣艦隊)	軍法會議(第四南遣艦隊)				
軍法會議(第五南遣艦隊)	軍法會議(第五南遣艦隊)				
軍法會議(第六南遣艦隊)	軍法會議(第六南遣艦隊)				
軍法會議(第七南遣艦隊)	軍法會議(第七南遣艦隊)				
軍法會議(第八南遣艦隊)	軍法會議(第八南遣艦隊)				
軍法會議(第九南遣艦隊)	軍法會議(第九南遣艦隊)				
軍法會議(第十南遣艦隊)	軍法會議(第十南遣艦隊)				

功績接



海軍





<p>(ホ) 第三南遣艦隊ニ於テ兵補規則ヲ制定スルニ際シ兵補ノ懲罰ニ関スル部分ヲ起案シ昭和十九年五月一日發布セラレタリ</p>	<p>警査三名 理事生一名 通訳一名</p>
<p>(ハ) 南西方面艦隊ト輝集團トノ間ニ於ケル軍律會議ノ管轄規定ニ該リ回答文ヲ起案昭和十九年二月十四日之が規定ヲ見タリ</p>	<p>バリツクパン分 廷ニハ 法務官二名 録事一名</p>
<p>(イ) 輝集團ヨリ南西方面艦隊ニ對シ陸軍軍律會議處新設禁囚ノ軍罰執行囑託ニ付照會ナリ之が回答文起案昭和十九年四月十二日規定成立セリ (ウ) 軍罰ヲ受ケタル者ヲシテ日本軍</p>	<p>警査二名 ヲ配置シ職務 シ居レリ</p>

海軍

<p>一 濃情ニ感激セシム作業ニ一段ト精</p>	<p>勵セシムルト共ニ一般原住民ヲシテ一</p>	<p>層軍政ニ心服協力セシメントノ意圖</p>	<p>ヲ以テ受罰者中犯情及執行状況ヲ</p>	<p>斟酌シ一部ノ者ニ對シ罰ノ減輕ヲ行</p>	<p>フヲ適當ト思料起案シ本年四月</p>	<p>二十九日ノ天長節ヲ期シ第二南遣艦</p>	<p>隊命令書ニ三號ヲ以テ軍罰減輕令</p>	<p>發布セラレタルヲ以テ之ガ實施ニ</p>	<p>當リ又民政法院受刑者ニ對スル同様</p>	<p>措置ニ付民政府ヲシテ之ヲ實施セシ</p>	<p>ムベク起案實現ヲ見タリ</p>	<p>川 昭和十九年二月一日附官報ニテ海軍總</p>
--------------------------	--------------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	--------------------	----------------------------

